



トルコ国民に恩返し

【ワン（トルコ東部）共

同】23日に大規模地震が起きたトルコ東部の被災地で、2人の日本人医師が奮闘している。「力の限りを尽くしたい」。東日本震災で支援をしてくれたトルコ国民への恩返し of 気持ちを胸に、現地で医療チームに加わり、次々と運ばれてくる患者を治療している。

国際医療援助団体「AMDA」（本部・岡山市）から派遣された外科医の大類隼人さん（30）＝神戸市在住＝と神経内科医の瀧崎祐一

日本人2医師 地震被災地で奮闘

さん（67）＝福岡市在住＝は最大被災地の一つエルジシュで負傷した被災者が搬送されてくる拠点の臨時診療所で活動している。

地震発生翌日の24日に日本を出発。「とにかく早く被災地に行かなければという気持ちだった」と大類さん。25日夕にはエルジシュに到着、すぐに患者の治療に取り掛かった。

同診療所には、心肺停止

で大きな被害が出た宮城県

南三陸町に4月上旬から約3週間滞在。その際、トルコから水などの支援物資を受け取り、多くのトルコ人医師が駆けつけ被災者を助ける姿も目にした。「どこに派遣されても全力を尽くすことに変わりはないが、今回は特に何とかしたいという気持ちが強い」と語る。

30日にはエルジシュを離れ帰国する2人。地震発生から数日が過ぎ、重傷者は徐々に減っているが、瀧崎さんは「時間が許す限り、必要とされることはどんなことでも精いっぱい協力したい」と力を込めた。

震災支援に感謝 「力の限り尽くす」